



鬼太鼓「吾潟鬼太鼓保存会」

令和 7 年 6 月 1 3 日牛尾神社祭礼「天王祭」にて

設 立 昭和 39 年
拠 点 佐渡市吾潟
会 員 13 人
神 社 牛尾神社
家入数 約 60 戸

↑ 吾潟では門付ではなく
「やいり」といいます



加茂湖に面した吾潟集落の鬼太鼓です。佐渡の鬼太鼓を 5 形態にわけたうち「潟上型」（かたがみがた）にあたり、「能の所作」の影響が特徴とされますが、吾潟の鬼太鼓はそれを色濃く残す代表的な団体の一つです。

吾潟集落には、佐渡宝生流を広めた家元・本間家所有の能舞台があり、本間家は江戸時代に佐渡奉行から“能太夫”という侍の格を与えられるなど、吾潟・潟上は能楽の中心地でした。「潟上型」鬼太鼓の舞は、十代目の太夫・本間清房が享保年間（1716-1736）に牛尾神社の祭礼で奉納舞（舞楽のようなもの）の鬼舞に能の振り付けをして奉納したものが原型と伝わっています。

太鼓打ちは安政年間（1854-1860）に潟上の関口六助が諏訪や京都で学んだ打ち方を基本に据えており、更に子の熊蔵、孫の薫の三代に渡り研鑽が積まれ、軽快なリズムと美しい踊りという洗練された形が、周辺集落を巻き込み人気を呼んだと考えられています。

プログラム・ワンポイント注目点

のう おにだいて
テーマ：”能と鬼太鼓”

鑑賞のポイント① 激しい動きはせず、静かに腰を落とし、
足運びは地面から離さず、すり足で移動する」

② 太鼓を敬い、太鼓の前に立つときは見上げるような姿勢に」

③ 止まることのない、連なってゆく舞

ワークショップ・・・吾潟鬼太鼓のリズムを太鼓を叩いて体感しよう！

白鬼、黒鬼の舞の所作の一部を体験してみよう！